

研究紀要「北の丸」第46号の概要

1. 刊行年月 平成26年1月

2. 刊行部数 700冊

3. 内容

【論文・研究ノート】

(1) 内閣補助部局における記録管理の史的展開

—政策形成とアーカイブズに関する試論として—

本稿は、日本における政策の形成や企画立案の過程において、記録文書がいか
に位置づけられてきたか、その史的展開を追ったものである。なお本稿は、当館
が平成24年度に実施した「アーカイブズ研修Ⅲ」の修了論文「わが国の政策形
成とアーカイブズに関する試論—内閣補助部局における記録管理の史的展開を中
心として—」を加筆・修正したものである。

(2) 統計調査の企画に関する文書についての一考察 —昭和45年国勢調査を事例に—

本稿は、「行政文書の管理に関するガイドライン」（平成23年4月1日内閣総理
大臣決定）の別表第2で歴史公文書等の具体例として示された「基幹統計調査の
企画に関する文書」について、その具体例として昭和45年国勢調査の立案・決定・
実施過程に考察を加えたものである。

(3) 国際標準に基づくアーカイブズ所蔵機関情報記述の試み

—国立公文書館を事例として—

本稿は、国際公文書館会議（ICA）が2008年に発表した「アーカイブズ所蔵
機関の記述に関する国際標準」（ISDIAH）に基づいて、独立行政法人国立公文書館
（本館）に関する記述を試みたものである。

【資料紹介・翻刻】

(4) 書物方年代記⑤

本稿は、徳川将軍家の蔵書（いわゆる紅葉山文庫）を管理する書物方の業務日
誌の紹介である。なお本稿は、第42号から継続的に発表しているもので、今回
で最後となる。今回は文化11年（1814）から安政4年（1857）の記述
の中から特筆事項を紹介している。

(5) 『思忠志集』件名細目（上）

本稿は、旗本の天野長重（1621～1705）が遺した『思忠志集』全22
冊について、その成立の経緯と天野長重の履歴等を紹介し、あわせて本文に補記
された件名を順に列挙したものである。『思忠志集』は、長重が四十年以上にわたっ

て書きとめた教訓・見聞・政策論・健康法等を収録し、その件数は2,015件、江戸時代前期の世相と風俗、そして武士の生活や思想を知る一級の史料といえる。

(6) 当館所蔵の「絵入り本」解題②

本稿は、貴重な古写本の陰に隠れて手つかずの状態となっていた「絵入り本」(本文に挿絵や図版などが添えられた書籍)について、書誌情報や内容などを解説したものである。

(7) 当館所蔵漢籍の「宋版」及び「元版」の解題④

本稿は、第43号から継続的に発表しているもので、国立公文書館が所蔵する漢籍について、その書物の内容・著者・伝来等を解説します。当館は、中国の南宋時代に刊行された「宋版」と元時代に刊行された「元版」とを、約130部所蔵しており、これらの書籍を一般の利用者にも分かり易く解説することを目的としたものである。